

第3回

済生会透析セミナー in 岡山 プログラム・抄録集

テーマ：透析における地域連携を考える



竹久夢二《童子》夢二郷土美術館蔵

日時 令和2年2月23日(日) 受付 8時30分～

会場 岡山県医師会館 三木記念ホール 岡山県岡山市北区駅元町19番2号

大会長 平松 信

岡山済生会外来センター病院 院長

副大会長 丸山 啓輔

岡山済生会総合病院 腎臓病センター長

<後援>

岡山県医師会・岡山県医師会透析医部会

第3回 済生会透析セミナー in 岡山
プログラム・抄録集

テーマ：透析における地域連携を考える

ご 挨拶

第3回済生会透析セミナーを、令和2年2月23日に、岡山県医師会館にて開催させていただくことになりました。

済生会透析セミナーは、平成24年発足の済生会透析連携協議会（会長：平松信）の主催による全国セミナーで、第1回は熊本で、第2回は東京で開催されました。

第3回は、岡山で「透析における地域連携を考える」をテーマに、済生会のみならず、全国の透析施設の医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、臨床工学技士などの透析医療従事者、ならびに透析患者の在宅療養に携わっている医療・看護従事者を対象にしています。

そのため、岡山県医師会、ならびに岡山県医師会透析医部会に後援をいただいています。

今回のテーマに相応しいポスターとして、夢二郷土美術館の竹久夢二作“童子”を選ばせていただきました。大きな椿の木の下で、手をつなぐ子どもたちの姿は、幼い日の夢二の思い出と考えられますが、手と手の間にあなたが加わっていただくことで、透析における地域連携が可能になります。

プログラムは、特別講演、教育講演、ランチョンセミナー、スイーツセミナー（パネルディスカッション）、講演2題、一般演題5題を予定させていただきました。また、多くの皆様のご協力にて、充実した内容を準備することができましたことに深く感謝申し上げます。

一人でも多くの皆様に参加していただきまして、透析医療を支えるための一助となるセミナーとなりますことを心から願っています。

令和2年2月吉日

第3回済生会透析セミナー

大会長 平松 信

（岡山済生会外来センター病院院長）

副大会長 丸山 啓輔

（岡山済生会総合病院腎臓病センター長）

セミナー概要

開催日：令和2年2月23日（日）

会場：岡山県医師会館 三木記念ホール
〒700-0024 岡山県岡山市北区駅元町19番2号
TEL 086-250-2100

大会長：平松 信
社会福祉法人岡山県済生会支部岡山県済生会
岡山済生会外来センター病院 院長

副大会長：丸山 啓輔
社会福祉法人岡山県済生会支部岡山県済生会
岡山済生会総合病院 腎臓病センター長

主催：済生会透析連携協議会

セミナー事務局：社会福祉法人岡山県済生会支部岡山県済生会
岡山済生会外来センター病院 庶務課
TEL 086-252-2211(大代表) FAX 086-252-2295

令和2年2月23日(日) 会場：岡山県医師会館 三木記念ホール

8:30	受付開始
9:00	開会式 開会挨拶 第3回済生会透析セミナー in 岡山 大会長 平松 信
9:10	講演① 「透析医療における地域連携」 演者 丸山 啓輔 岡山済生会総合病院 腎臓病センター長 座長 新田 豊 山口県済生会下関総合病院 副院長
9:50	一般演題(5題)1人10分(発表8分、質疑2分) 座長 鈴木 靖 済生会新潟病院 内科部長・医療情報部長 高尾 晃輔 岡山済生会総合病院 臨床工学科副主任
10:40	休憩
10:50	講演② 「外来・病院・地域をつなぐ療養支援」 ～腎臓病看護外来の取り組み～ 演者 大脇 浩香 岡山済生会外来センター病院 腎臓病センター 透析看護認定看護師 座長 宇賀神 ゆかり 東京都済生会中央病院 看護師長
11:30	休憩
11:40	ランチョンセミナー【共催：バクスター株式会社】 「地域包括ケアと透析療法」 ー在宅医療の現状と課題、そしてアシストPDを中心にー 演者 宮崎 正信 宮崎内科医院 院長 座長 竜崎 崇和 東京都済生会中央病院 副院長
12:40	休憩
12:50	教育講演【共催：株式会社ジェイ・エム・エス】 「地域の特性に合わせたCKD診療連携」 演者 海老原 至 水戸済生会総合病院 副院長 座長 安永 親生 福岡県済生会八幡総合病院 腎センター主任部長
13:30	特別講演【共催：テルモ株式会社】 「大規模災害における腹膜透析の役割」 演者 寺脇 博之 帝京大学ちば総合医療センター第三内科(腎臓内科) 教授 座長 平松 信 岡山済生会外来センター病院 院長
14:30	休憩
14:40	スイーツセミナー【共催：協和キリン株式会社】 (パネルディスカッション) 「災害における地域連携」 演者 西崎 哲一 西崎内科医院 院長 戎谷 典子 倉敷中央病院 人工透析センター 透析看護認定看護師 副島 一晃 済生会熊本病院 腎・泌尿器科センター 腎臓科部長 兼 臨床工学部門部長 座長 桃木 律也 岡山済生会総合病院 腎臓病センター 副センター長 岡田 弘毅 岡山済生会総合病院 臨床工学科副主任
16:00	閉会式 次期大会長挨拶 第4回済生会透析セミナー in 水戸 大会長 海老原 至 閉会挨拶 第3回済生会透析セミナー in 岡山 副大会長 丸山 啓輔

抄 録 集

講演①

透析医療における地域連携

岡山済生会総合病院 腎臓病センター長 丸山 啓輔

慢性腎不全・透析医療において、腎不全の早期発見とその管理、透析の適切な導入とその管理のために、地域医療連携の重要性はますます高まっている。

保存期慢性腎不全では、腎不全の進行速度を抑制し、心血管障害のリスクを低減し、そして適切な透析導入のため、CKD 診療ガイドラインにおいて、腎臓専門医の介入についての基準が示されている。当院は岡山市 CKD ネットワーク（OCKD-NET）の基幹施設の一つとしてその役割を果たしている。また腎臓専門医だけでなく、専門看護師による介入は効果的であり、特に腎代替療法の選択においては極めて重要である。当院では腎臓病看護外来を開設しており、その有効性については講演②において説明させていただく。

一方、透析導入後は血液透析であれば、近隣クリニックへの紹介・シャントの管理・合併症の治療・施設入所の橋渡しなどにおいて、地域連携は必要不可欠なものとなっている。

そして腹膜透析においては、透析という医療行為を在宅で行うという特徴から、地域連携の重要性はさらに高い。しかし透析患者の高齢化が進行しているなかで、自立が困難であったり認知症を有する腹膜透析患者を支える社会的なシステムは、現状では十分には確立されていない。

Assisted PD はそうした患者に対する有効なアプローチであるが、患者・家族ともに継続していくためには、基幹病院・かかりつけ医・訪問看護ステーション・居宅介護支援事務所・デイサービスやショートステイを行う施設などで、患者・家族を支援する体制を整えていくことが必要である。腹膜透析に慣れていない施設が多い中で、腹膜透析を受け入れてもらえるよう働きかけていくことは、基幹病院の責務とも言える。

また近年の診療報酬・介護報酬においても、こうした在宅支援・地域連携については増点される方向で改定されており、積極的な取り組みが望まれる。

一般演題（5 演題）

① 東京都済生会中央病院

「腹腔鏡下胆嚢摘出術 9 日目に腹膜透析を再開し透析液漏出を認めた一例」

腎臓内科 小松 素明

② 水戸済生会総合病院

「生活環境が関与した若年腎不全の一例」

腎臓内科 椎名 映里

③ 福井県済生会病院

「血液透析患者の夜間低血糖」

腎臓内科 加藤 珠代

④ 山口県済生会下関総合病院

「当院における在宅血液透析の取り組み」

腎臓内科 岡崎 恵

⑤ 福岡県済生会八幡総合病院

「当院透析室における医療安全の取り組み」

看護部 木村 文男

講演②

外来・病院・地域をつなぐ療養支援～腎臓病看護外来の取り組み～

岡山済生会外来センター病院 腎臓病センター

透析看護認定看護師 大脇 浩香

当院では看護専門外来を開設している。看護外来室は、腎臓病看護外来、糖尿病看護外来、糖尿病透析予防支援外来やフットケア外来等を運用している。患者さんの中にはひとつの病だけでなく、複数の病を併せ持つ方もおり、複数の病を併せ持つことで治療や療養は複雑、困難になることもある。そのときには、他の看護専門外来のスタッフにも関わるように調整することも少なくなく、患者さんにとって必要な看護をつなげ包括的な看護を提供している外来である。

腎臓病看護外来の対象者は、慢性腎臓病を抱える患者さんとその家族である。腎臓病看護外来でのケアを必要としている人は多く、低下した腎機能を維持したいと思っているが療養方法が見出せない人、治療方針が変わろうとしている人や変わる人（例えば、保存期腎不全から腎代替療法が必要となってきた人）や高齢で独居生活によって療養が困難になっている人などがいる。その中でも、腎臓病看護外来での最も多い支援内容は、腎代替療法（renal replacement therapy：RRT）に関する意思決定支援である。RRTを決めるプロセスにおいて、情報提供はいうまでもなく重要であり、「患者さんの一番近くにいる」職種である看護師が関わる意義は大きい。医学的知識をもち、生活の側面から患者さんを支える専門職である看護師は、患者さんの生活に結びつけた情報提供が可能であり、また心理面・社会的側面からアプローチすることができる。そのためには、患者さんの療養行動にある背景を理解し、対話を重ねながら根気強く関わり続けることが重要である。そして、多職種の専門性を理解し、そして地域の支援者とも連携し、「患者さんの生活を支える支援」が必要とされている。

本日は、事例も含め腎臓病看護外来の取り組みをお伝えしていきたい。

地域包括ケアと透析療法－在宅医療の現状と課題、そしてアシスト PD を中心に－

宮崎内科医院 院長 宮崎 正信

これからの超高齢化社会は、75 歳以上の後期高齢者が急増し、重老齢社会とも言われている。透析導入患者の平均年齢は健康寿命を超えて、男性が 75 歳から 79 歳、女性は 80 歳から 84 歳がピークとなっており、心不全、脳血管障害、認知症、フレイルなどの身体的疾病の他、老々介護、独居、貧困などの生活問題を多く抱え、医療だけのサポートでは不十分となっている。その中で、超高齢化社会の有り様として提案されているのが、“地域包括ケア”である。地域包括ケアは、行政や住民が連携・協力しながら、住み慣れた地域で、高齢者が安心して生活できることを目的とするが、“時々病院、ほぼ在宅”の実践には、医療と介護の協働が必要で、訪問診療や往診を行うかかりつけ医や訪問看護師は、地域包括ケアのために必須の存在となっている。ここでは、医療・介護連携が、どのように展開され、どんなことが可能となっているのか、何が問題なのか、そして血液透析患者へどんな応用が可能なのかを紹介する。また、多くの問題を抱えている高齢者腹膜透析（PD）患者をどのようにアシストしていくのか、“アシスト PD”の現状と問題点に触れてみたい。超高齢化時代の透析医療を考えるヒントとして頂ければと思う。

【共催：バクスター株式会社】

地域の特性に合わせた CKD 診療連携

水戸済生会総合病院 副院長 海老原 至

人口約 290 万人の茨城県は、関東平野北東部に位置し、東に太平洋をのぞみ、地形は北部山地と中央部から西部域に広がる台地および主に南東部に分布する利根川下流域と同水系に属する霞ヶ浦・北浦を含めた低地域で構成されています。人口の多くは日立製作所を中心とした日立地区、県庁所在地である水戸・県央地区、そして研究学園都市があるつくば地区に集まる傾向を示していますが、平坦な地形を反映し比較的規模の小さな市町村が散在しています。

透析に関する医療連携は交通の便を背景に大まかに決まっていますが、2011 年の東日本大震災をきっかけに、保健所管轄区分を一部参考に県を 6 地区に区分けして連携しています。地区内の透析機関が少なくとも年に 1 回の会議を開催しながら日ごろの診療も連携することとされています。しかし、保健所の管轄区分の変更や人口の増減、医師の流入・流出の問題もあり、地区内で医療が完結しない地区も多々存在し課題が残ります。

透析導入前の慢性腎臓病については 2018 年 7 月、厚生労働省が約 10 年ぶりに腎疾患対策を改め腎疾患対策検討会報告書が作成されました。報告書によると、「2028 年までに年間新規透析導入患者数を現在の約 4 万人から 3 万 5 千人以下に減少させる」ことが目標としてあげられました。茨城県水戸地区では中心となる大学病院は存在しないものの、腎専門医の診療所医師が複数存在するため、病診連携のほかに診診連携を活用し慢性腎臓病の早期発見・早期治療を目指し活動しています。2015 年からは医師会や行政とも連携し、健診受診率を上げることも目標に市民向けの活動を、イベント会場を利用して進めています。

私たちが取り組む CKD 診療連携を茨城県という地形的な背景を参考にお話しさせていただきます。医師のみならず、看護師、臨床工学技士、薬剤師、管理栄養士などの皆さんの今後の診療における一助になれば幸いです。

【共催：株式会社ジェイ・エム・エス】

特別講演

大規模災害における腹膜透析の役割

帝京大学ちば総合医療センター 第三内科（腎臓内科）教授 寺脇 博之

私たちの住む日本は四季に富み、海の幸・山の幸に恵まれた風光明媚な土地ですが、それゆえにそこに暮らす私たちは台風、大雨、それに地震といった災害リスクと隣り合わせで生活することを運命づけられております。すなわち、私たちは大規模災害が起こる可能性を常に念頭に置く必要があります、それを意識することは生命維持と直結する医療の分野においてとりわけ重要であります。

さて大規模災害ではライフラインが広範に障害されますが、特に重要である3つの障害は①水、②電気、③通信、であります。腎不全医療を考えた場合、①および②の供給は血液透析の施行に必須であり、いずれか一方でも途絶えた場合には血液透析の施行は不可能となります。

本講演の演者である寺脇は、過去に阪神大震災、地下鉄サリン事件、東日本大震災、そして昨年の台風15号および19号といった人災・天災に、当事者として関わった経験がございます。そしてその中で、特に天災時における「ハイテクの資材＋ローテクの（電気をしない）現場運用」を旨とする腹膜透析の頑強性を実感することができました。講演では、限られた時間のなかで、出来るだけこのような知見を会場の皆さまと共有できるようお話しさせていただきたいと思っております。

【共催：テルモ株式会社】

スイーツセミナー

パネルディスカッション

テーマ「災害における地域連携」

パネリスト

西崎 哲一

「災害時情報ネットワーク活用と今後の課題」

西崎内科医院 院長

戎谷 典子

「災害における透析看護師の役割」

～西日本豪雨災害を経験された透析患者さんへの腎性貧血を含めた関わり～

倉敷中央病院 人工透析センター 透析看護認定看護師

副島 一晃

「熊本地震における地域連携」

済生会熊本病院 腎・泌尿器科センター 腎臓科部長 兼 臨床工学部門部長

【共催：協和キリン株式会社】

謝 辞

第3回済生会透析セミナー in 岡山を開催するにあたり、岡山県医師会、岡山県医師会透析医部会並びに多くの企業の方にご支援、ご協賛いただきました。深く感謝し、心より御礼申し上げます。

第3回済生会透析セミナー in 岡山

大会長 平松 信

副大会長 丸山 啓輔

ランチョンセミナー共催

バクスター株式会社

スイーツセミナー共催

協和キリン株式会社

特別講演共催

テルモ株式会社

教育講演共催

株式会社ジェイ・エム・エス

広告協賛

旭化成メディカル株式会社
アストラゼネカ株式会社
キッセイ薬品株式会社
グラクソ・スミスクライン株式会社
沢井製薬株式会社
大正製薬株式会社
田辺三菱製薬株式会社
テルモ株式会社
ニプロ株式会社
ノバルティスファーマ株式会社
バクスター株式会社
マルホ株式会社

アステラス製薬株式会社
大塚製薬株式会社
協和キリン株式会社
興和創薬株式会社
第一三共株式会社
武田薬品工業株式会社
中外製薬株式会社
鳥居薬品株式会社
日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社
バイエル薬品株式会社
扶桑薬品工業株式会社
メディキット株式会社
(五十音順)

寄付協賛

小野薬品工業株式会社

第3回 済生会透析セミナー in 岡山
プログラム・抄録集

大 会 長：平松 信（岡山済生会外来センター病院）

副大会長：丸山 啓輔（岡山済生会総合病院）

主 催：済生会透析連携協議会

セミナー事務局：社会福祉法人岡山済生会支部岡山県済生会

岡山済生会外来センター病院 庶務課

〒700-0013 岡山県岡山市北区伊福町1丁目17番18号

TEL 086-252-2211(大代表) FAX 086-252-2295